

# JANU

国立大学協会情報誌  
Quarterly Report

Vol. 17 August 2010

【特集】国立大学—日本の“智”を発信する

## 智の礎を築く

人材育成への戦略

### Opinion

佐々木毅<sup>氏</sup>

それぞれの国立大学が、  
更に個性化、  
多様化を目指す時代へ

### 支部通信

北海道大学 秋田大学 東京大学 筑波大学  
名古屋工業大学 和歌山大学 香川大学 熊本大学

### 今、学生は!

東京海洋大学 設楽愛子さん

「わかりやすく、正しく」

海と生き物のことを伝えたい



# 佐々木毅 氏

# Opinion

## それぞれの国立大学が、 更に個性化、多様化を目指す時代へ

2004年度にスタートした国立大学法人制度は、2009年度末で第1期中期目標期間を終え、第2期目に入りました。その移行期に東京大学総長、また、国立大学協会会長として大学改革に当たられた佐々木毅氏に、国立大学法人化のこれまでと今後について伺いました。

**これまでの枠から出て21世紀の可能性ある組織を目指す**

法人化への移行の過程では、国立大学法人と独立行政法人とは違うものであるということを主張するのが大変重要でしたが、ここにきてようやく区別されるようになりました。

上からの指示でやるのではなく、あくまでも自主的な教育研究活動を基盤にした組織であることが定着したのは、当手を振り返ると感慨深い点ではありません。

法人化の大きな目的は、経営に携わる学長の自由裁量の余地を広げ、

イニシアティブを取っているいろいろなことが出来るようにするという自由度の広がりであると言われました。

しかし、諸事情により運営費交付金が増えることはなく、自由度という点では、依然として課題が残っていると見受けられます。

また、当初から私を感じていたのは、法人化の中で一番大きな変化を促されるのは、先生方ではなく事務職員の方々ではないかということでした。これまでの事務の立場から、大学経営の最前線に立ち、併せて教育研究のサポートिंगスタッフにならなければいけない。その意味で、

新しい法人制度の下では、事務職員の方々の協力が不可欠であると思っています。

とは言え、各国立大学が自ら目標を定め、それに則して行動しなければいけないという法人化の基本原則は、組織の中に浸透したのではないのでしょうか。

**地方大学の目覚ましい動きは  
評価出来ることの二つ**

これまでの国立大学が社会とは希薄な関係であったのが、法人化により地域との接点を模索し、お互いに持てる財産を有効に活用しようとい

う動きが積極的に生まれてきました。例えば国立大学の医学部や附属病院が地域の医療制度の中で不可欠の存在となり、地方自治体からの出資で病院をサポートするというようなことをあちこちで聞くようになりました。

いろいろご苦労はあると思いますが、地方の国立大学と地域との協力が格段に進んだという話を聞くのは大変うれしいですね。

小泉純一郎政権の時代には産学連携ということがよく言われました。今や産学連携を更に拡大して、産業界のみならず「社会」と「学」の連

佐々木毅（ささき たけし）

1942年 秋田県生まれ

1965年 東京大学法学部卒業

1978年 東京大学法学部教授

2001年 東京大学総長

2005年 学習院大学法学部教授（～現在）

携をもつと追求すべきであると思っ  
ています。

### 現在の高等教育問題を 解決する新たなシステム作り

日本の高等教育費支出をGDP比  
にすると、OECD諸国の中で最低  
の水準だと言われています。今がギ  
リギリの状況で、これを更に減らす  
となれば、もう、先生方に頑張れと  
は言えなくなってしまいます。

ですから、21世紀の日本を展望し  
た時に、科学技術や学術研究の大切  
さ、そしてそれらが他の分野と比べ  
ていかに重要なものであるかについ  
て、国民も含めた社会的な合意形成  
を政治主導でやらなくてはいけない  
と考えています。

それにはまず大学の構成員が、自  
ら自分たちのやっていることをきち  
んと点検し、国立大学法人をより広  
く知ってもらうための努力をするこ

# 学術、科学技術の水準を維持し 人材を活用出来る社会を！

とが必要で。そういった意味でも、広報活動を担う国立大学協会の役割は極めて大きいと思います。

そして国立大学としては、相対的にお金が掛かる研究領域できちんと成果を上げていく。税金を使って研究する、言わば社会の負託にこたえることが大切です。他にも、これからは人材育成に関するさまざまな試みが必要になってくるでしょう。

私は社会科学領域の立場にいるので特に感じますが、日本の学生は今自分たちがどんな社会で生き、社会がどんな方向をたどっているのかについて、実にナイーブで何も知りません。これは職業選択をする上でも由々しきことです。

大学に入ったら頭を受験勉強から切り離させ、社会性について徹底的に学ばせる。就職活動の時期になって認識するのでは遅すぎます。

社会性という問題を教育の中できつちり位置付けることも、大学の重要な仕事なのではないでしょうか。

## 雇用問題を真剣に考える時

今、博士課程を修了した者の就職先がないということが、深刻な問題

となつています。若い人たちはそれを敏感に察知していますから、一部の領域では博士課程の空洞化が進んでいます。

この問題を解決するためには、社会の方でも、若い世代を積極的に生かし、その能力を十分に発揮してもらおう環境を作るための意識改革が行われなければなりません。

それと同時に、文部科学省、厚生労働省の管轄下で別々に問題を処理するという従来の縦割り行政を改め、日本の学術、雇用政策両方の視点から、この問題をもう一度検討すべきでしょう。そのためには、省庁間の横の連携が必要なのだと思います。

## 第2期は大学の個性を生かして「選別的フル回転」を

法人化への移行を遮二無二やらざるを得なかった6年間が過ぎたわけですので、第2期が始まった今は一呼吸入れて、大学作りをもう一度考える区切りの時期ではないでしょうか。

各大学では学長、理事、その他の方々がよくよく実体の把握に努められて、実現の可能性のあるプランを

作成して頂く。何を次なる展開の軸にするかは管理者の目利き能力にかかっていますので、そこを大いに期待したいところです。

第1期は、全般にわたつての「フル回転」の時代でしたが、まずそこでやったことを確実な成果としてとらえた上で、今期は取り組む課題を

絞った「選別的フル回転」でやって頂きたいですね。

今までは国立大学という一色で見られてきましたが、それぞれ持っている物的資源も人的資源も違います。取り組む課題も各大学で個性化していきます、今後はますます多様化していくことでしょう。



Opinion

# 智の礎を築く

山梨大学  
京都大学  
東京学芸大学  
山形大学  
奈良先端科学技術大学院大学  
名古屋大学  
旭川医科大学  
豊橋技術科学大学  
福井大学  
愛媛大学



## The Base

「知識基盤社会」である21世紀において、高等教育機関としての国立大学が果たすべき役割は大きい。各国立大学においては、智の礎を築くさまざまな活動が行われています。今号の特集では、これからの日本を支える人材を育成するために実践している特色ある教育プログラム、教育メソッドを取り上げます。

【特集】 国立大学 ― 日本の智を発信する

JANU Quarterly Report Vol.17 August 2010

編集・発行 / 社団法人 国立大学協会  
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-2  
TEL: 03-4212-3506



社団法人 国立大学協会

The Japan Association of National Universities

<http://www.janu.jp>